

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	*	*	*
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況が収束傾向にあり、経済活動に活気が戻りつつある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は県外からの来街客が多く、商店街は昼も夜もにぎわっていた。その後の休日にもイベント等の開催で人出が増加しており、人々が徐々に外出に慣れてきたと感じる。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・原油価格の高騰やウクライナ情勢による食材の仕入価格の値上がりといった懸念材料があるものの、新型コロナウイルスの感染状況が多少落ち着いてきており、人々の動きが少し活発になってきている。来客数も前年比で微増状態になっている。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は依然として収束傾向にはないが、徐々に繁華街に人が戻ってきている。特に週末の夕方の早い時間は、来客数が自粛期間以前の水準近くまで回復している。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が収束傾向にあり、来客数が増加している。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は帰省客が多く、売上が増加した。
	○	スーパー（経営戦略）	来客数の動き	・連休中の人の動きは、新型コロナウイルス発生前の状態に近かったと感じた。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・客単価、来客数共に前年を上回る水準である。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中に来客数が増加した。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・5月は天候に恵まれ、人の外出頻度も増えたため、服の売上が増加した。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、ビジネス客や観光客が少しずつ増加している。
	○	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宴会や飲食の動きは良くないが、宿泊客の動きは回復傾向にある。
	○	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・移動制限が解除されたことにより、県民割等のキャンペーン商品の売上が増加している。特に、Webからの予約が増加している。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、客の動きは良くなってきている。
	○	設計事務所（所長）	それ以外	・経済団体等の会合や懇親会が増えており、飲食店の客も増加している。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・依然として商品の値上げが続いているが、客単価と売上数量に大きな変化はない。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス発生前と比較すると、来客数は減少しているが、客単価は増加している。最近の各種商品の値上げ状況を考えると、安易に回復しつつあるとはいえない。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症は収束傾向にあるが、連休中の来客数は減少した。景気が良いのか悪いのか、今の段階では分からない。
	□	家電量販店（副店長）	単価の動き	・今年のゴールデンウィークは全国的な移動制限がなかったため、人が県外に流出し来客数が減少した。一方、売上単価については上昇しており、どちらともいえない状況である。
□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・依然として新車の納期が長期化しており、状況は変わらない。	
□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きは依然として悪く、状況は変わらない。	
□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が収束傾向にある一方、ウクライナ情勢に関連するコスト上昇といった懸念材料もあり、どちらともいえない状況である。	

	□	タクシー運転手	お客様の様子	・夜の街には中高年より若者が多い印象を受けるが、人出は以前と余り状況は変わらない。
	□	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・売上、来客数共に大きな変化はみられない。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・状況の変化は余りみられない。
	□	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・インターネット投票による巣籠り需要は継続しているが、状況に大きな変化はない。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・状況は変わらない。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・駅前核店舗第3セクター撤退の影響が大きく、今後の対策や地域全体の将来構想もほとんどみえていない。
	▲	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことにより、再び客が外食に流れている。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・来客数が微増したにもかかわらず、販売量は減少している。客は、購入意欲はあるが、購入にふみきれていない様子がうかがえる。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・半導体不足と上海のロックダウンにより部品が入らず、自動車の生産や受注が停止されている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の登録台数は、生産台数の遅れにより状況が厳しかった前年を更に下回る水準で推移している。
	×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは、外出制限がなく県外に人が多く流出したため、売上が激減した。また、連休後も回復には至っていない。
企業 動向 関連 (四国)	◎	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原材料等の仕入価格上昇により4月から値上げを行ったが、その後も受注は順調に推移している。従来の取引先からの発注量が元に戻りつつあることに加えて、新しい商材を求める新規取引先や、ネット販売による注文も増加している。新型コロナウイルスの感染状況が収束傾向にあり、小売店のマインドが明るくなっているように感じる。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・依然として資材価格の高騰が収益を圧迫しているが、受注量は安定している。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・原材料や特殊な部品が入手できない状況にあったが、代替品で対応できるようになったため、売上は順調に推移している。
	○	建設業（経営者）	競争相手の様子	・建設関連業の本業では、ここ数年、防災減災関連の公共事業の増加により、業績は業界全体的に堅調である。新型コロナウイルスの影響により自粛を余儀なくされていた対面を伴う研究開発や教育、社会貢献活動がここに来て動きが始まったことで、業界内も活性化している。
	○	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・コロナ禍でも経済活動が活発化している。
	○	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・国内向け出荷量は依然として低水準のまま推移している一方、海外向け出荷量は回復傾向にある。
	○	通信業（総務担当）	それ以外	・社外団体と共同で実施するイベントやボランティア活動なども、新型コロナウイルス発生前に近い形式で開催されるようになっている。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大やウクライナ情勢等の懸念材料はあるものの、業績が改善傾向にある企業が増えてきていることや、今後インバウンド需要も見込めることから、景気は上向くと考えている。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・材料の価格高騰が続いており、売上は順調に推移しているが利益が出ない状態になっている。結果として、状況は以前と変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・先進国を中心としたワクチン接種の進展により、経済活動が再開され、景気は回復基調にある。一方、世界的な半導体不足による調達環境の悪化や、原材料価格の高騰、ウクライナ情勢等の懸念事項により先行きは不透明であり、どちらともいえない状況である。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民とも受注が伸びておらず、以前と状況は変わらない。

	□	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・長く続いた行動制限や営業自粛が緩和されたにもかかわらず、市場では需要と供給の均衡が崩れた状態が続いており、取扱物量が新型コロナウイルス発生前の水準を下回る状況が続いている。値上げが予定されている商品の駆け込み需要に対応した貨物の動きもみられない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・以前と状況は変わらない。
	▲	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売販売は、委託販売のため出荷者が値段をつけての販売ができない。実需者が量販店中心となり、卸売市場での需給による価格への反映が鈍い。コロナ禍でこの傾向が強まっているが、日製品の値上げラッシュのしわ寄せが青果物にきており、厳しい状況である。
	▲	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスによる行動の制限がなくなってきたにもかかわらず、広告投下量は芳しくない。
	×	化学工業（所長）	それ以外	・ウクライナ情勢による悪影響が拡大している。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・派遣法3年満了に伴い、直接雇用を実施する企業が増えており、正社員の募集が増加している。
	○	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・前年同月と比べ就職者数が微増しており、景気が良くなっていく兆しがある。
	○	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・前年同時期と比較して求人数が1割程度増加しており、徐々に景気が回復しているように感じる。
	□	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は依然として高止まりしているが、来客数は回復傾向にある。一方、公共施設において人流を整理する感染症対策要員やサービス業に係る人員の不足が懸念されており、需要に供給が追いついていない状況である。
	□	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・景気の停滞を受け、求人数は各企業で横ばいである。求人に対する人員の充足が長期にわたって見込めない企業が多い状況である。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症は収束の傾向にあるが、景気自体は縮小気味である。車関係の広告費も、供給力の低下に伴い減少傾向にある。
	□	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・前年同月と比べ新規求人倍率や月間有効求人倍率が僅かながら上昇し、就職件数も若干増加したが、状況は大きくは変わっていない。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣の依頼数が減少しており、製造業の求人数が激減している。
		×	—	—